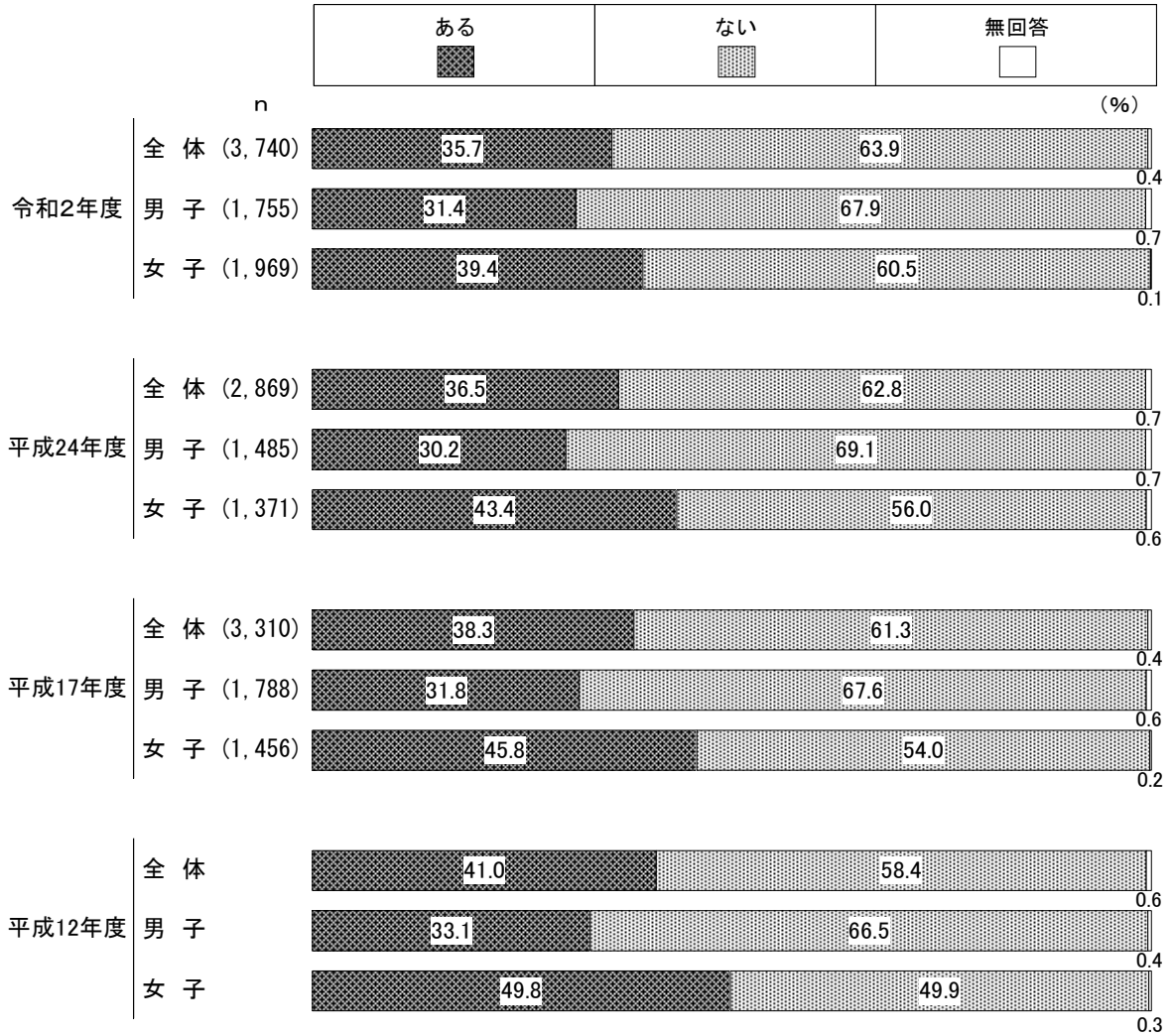


## 7. 周囲の人々との関わりや行動

### (1) 赤ちゃんを抱いた経験

問39 この1～2年の間に、赤ちゃんを抱いたことがありますか。

図表7-1-1 赤ちゃんを抱いた経験（経年比較）



この1～2年の間に、赤ちゃんを抱いたことがあるか聞いたところ、「ある」が35.7%、「ない」は63.9%となっている。

男女別でみると、「ある」は女子（39.4%）が男子（31.4%）より8.0ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「ない」は平成12年度以降増加傾向にある。

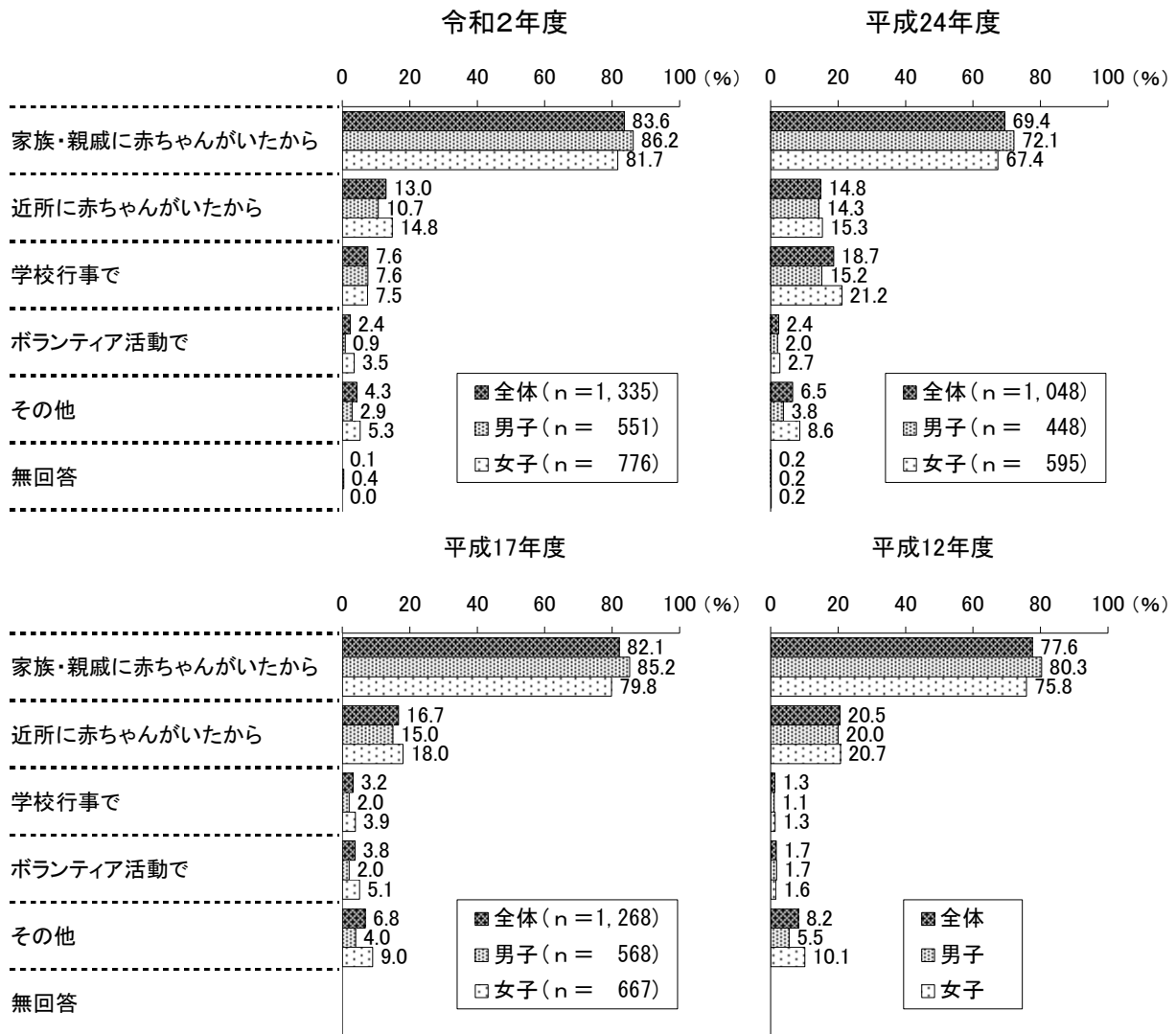
男女別では「ない」は平成24年度より女子で4.5ポイント増加している。

## (2) 赤ちゃんを抱いた機会

問39で「ある」と答えた方へ

問39-1 赤ちゃんを抱いたのは、どういう機会でしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表7-2-1 赤ちゃんを抱いた機会（経年比較）〔複数回答〕



赤ちゃんを抱いたことが「ある」と答えた人（1,335人）に、赤ちゃんを抱いた機会を聞いたところ、「家族・親戚に赤ちゃんがいたから」が83.6%で最も高く、次いで「近所に赤ちゃんがいたから」（13.0%）、「学校行事で」（7.6%）、「ボランティア活動で」（2.4%）となっている。

男女別でみると、「家族・親戚に赤ちゃんがいたから」は男子（86.2%）が女子（81.7%）より4.5ポイント高くなっている。一方、「近所に赤ちゃんがいたから」は女子（14.8%）が男子（10.7%）より4.1ポイント高くなっている。

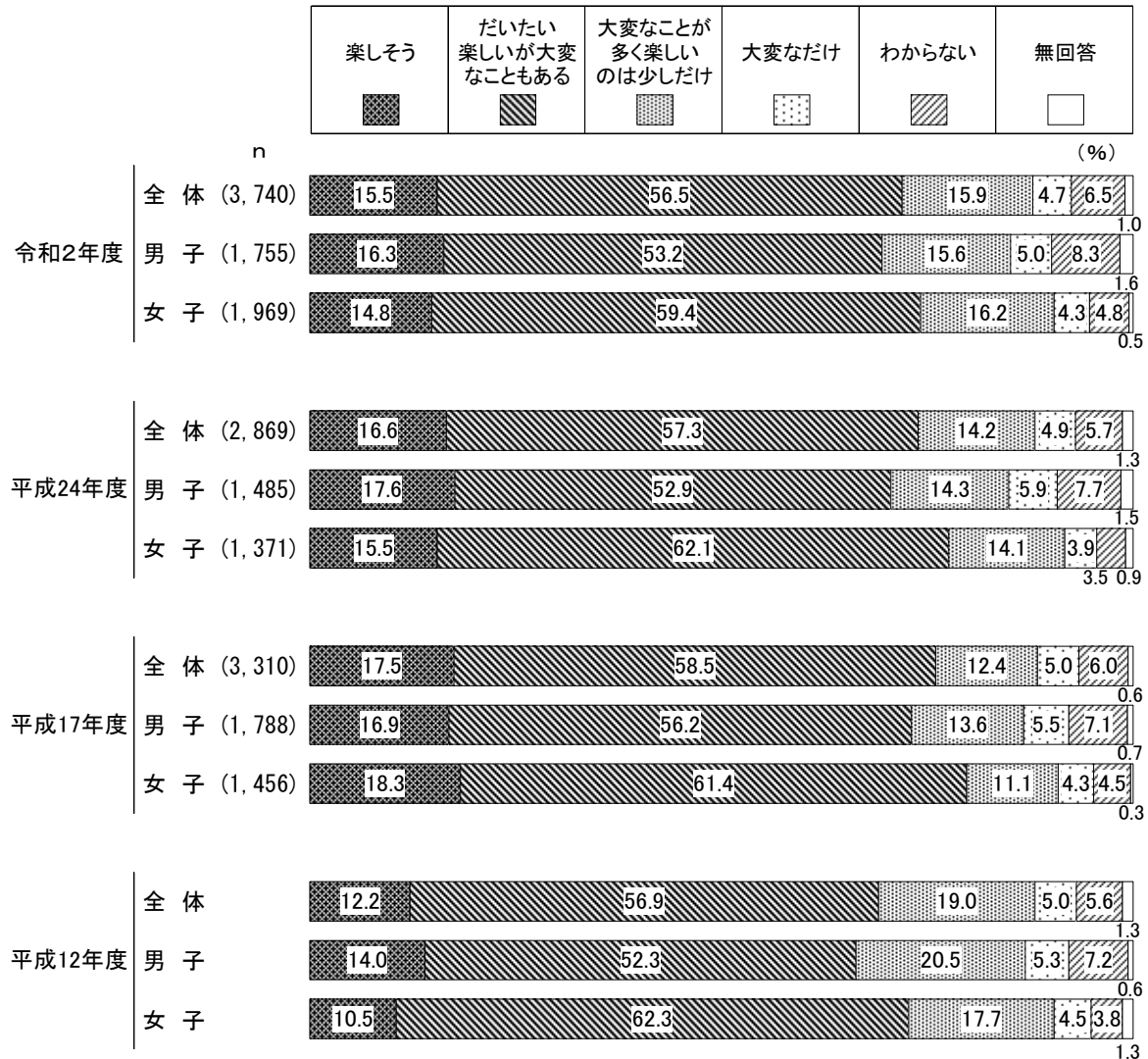
過去の調査と比較すると、全体では「家族・親戚に赤ちゃんがいたから」は平成24年度より14.2ポイント増加している。一方、「学校行事で」は平成24年度より11.1ポイント減少している。

男女別では「家族・親戚に赤ちゃんがいたから」は平成24年度より男子で14.1ポイント、女子で14.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「学校行事で」は平成24年度より男子で7.6ポイント、女子で13.7ポイント、それぞれ減少している。

### (3) 育児に対する意識

問40 赤ちゃんを育てることについてどう思いますか。

図表7-3-1 育児に対する意識（経年比較）

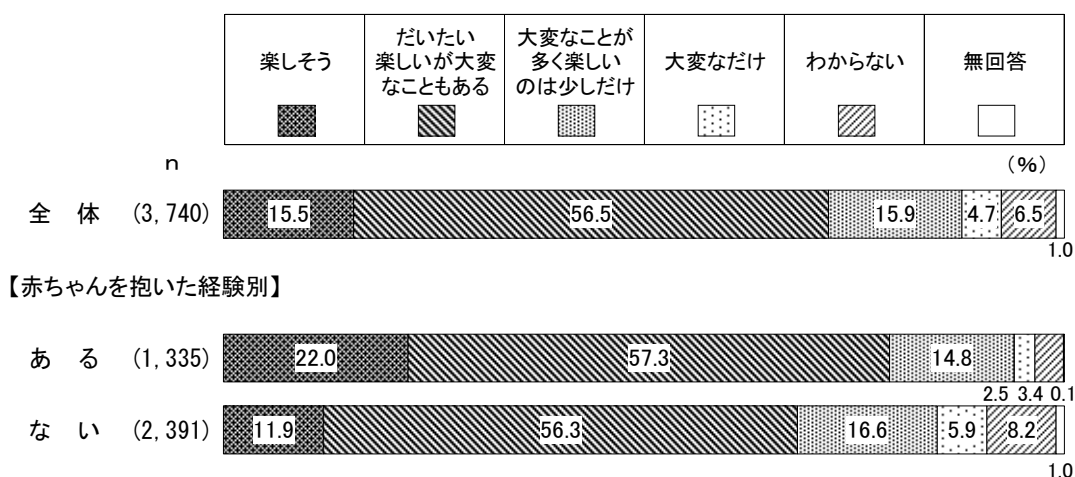


赤ちゃんを育てることについて聞いたところ、「だいたい楽しいが大変なこともある」が56.5%で最も高く、次いで「大変なことが多く楽しいのは少しだけ」（15.9%）、「楽しそう」（15.5%）、「大変なだけ」（4.7%）となっている。

男女別で見ると、「だいたい楽しいが大変なこともある」は女子（59.4%）が男子（53.2%）より6.2ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体、男女別ともに平成24年度と比べて大きな傾向の変化はみられない。

図表 7-3-2 育児に対する意識（赤ちゃんを抱いた経験別）



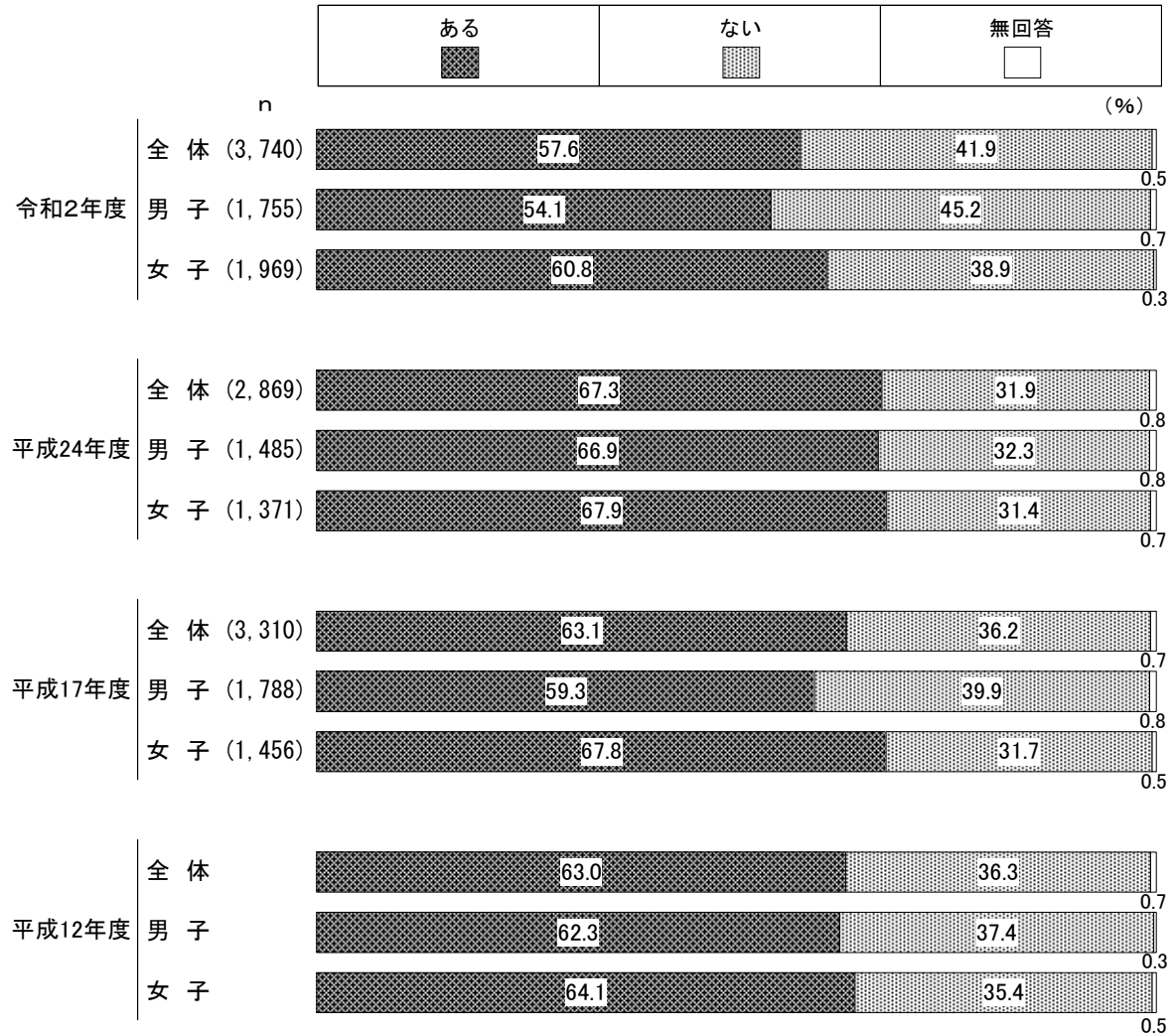
赤ちゃんを抱いた経験別でみると、「楽しそう」は“赤ちゃんを抱いた経験がある人”（22.0%）が“赤ちゃんを抱いた経験がない人”（11.9%）より 10.1 ポイント高くなっている。一方、「大変なだけ」は“赤ちゃんを抱いた経験がない人”（5.9%）が“赤ちゃんを抱いた経験がある人”（2.5%）より 3.4 ポイント高くなっている。

#### (4) 地域活動の経験

問41 これまでに地域活動の経験がありますか。

※地域活動とは、地域の清掃、学校以外におけるスポーツ、ボランティア、町のお祭りなどをさします。

図表7-4-1 地域活動の経験（経年比較）



地域活動の経験があるか聞いたところ、「ある」が57.6%、「ない」は41.9%となっている。

男女別でみると、「ある」は女子（60.8%）が男子（54.1%）より6.7ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「ない」は平成24年度より10.0ポイント増加している。

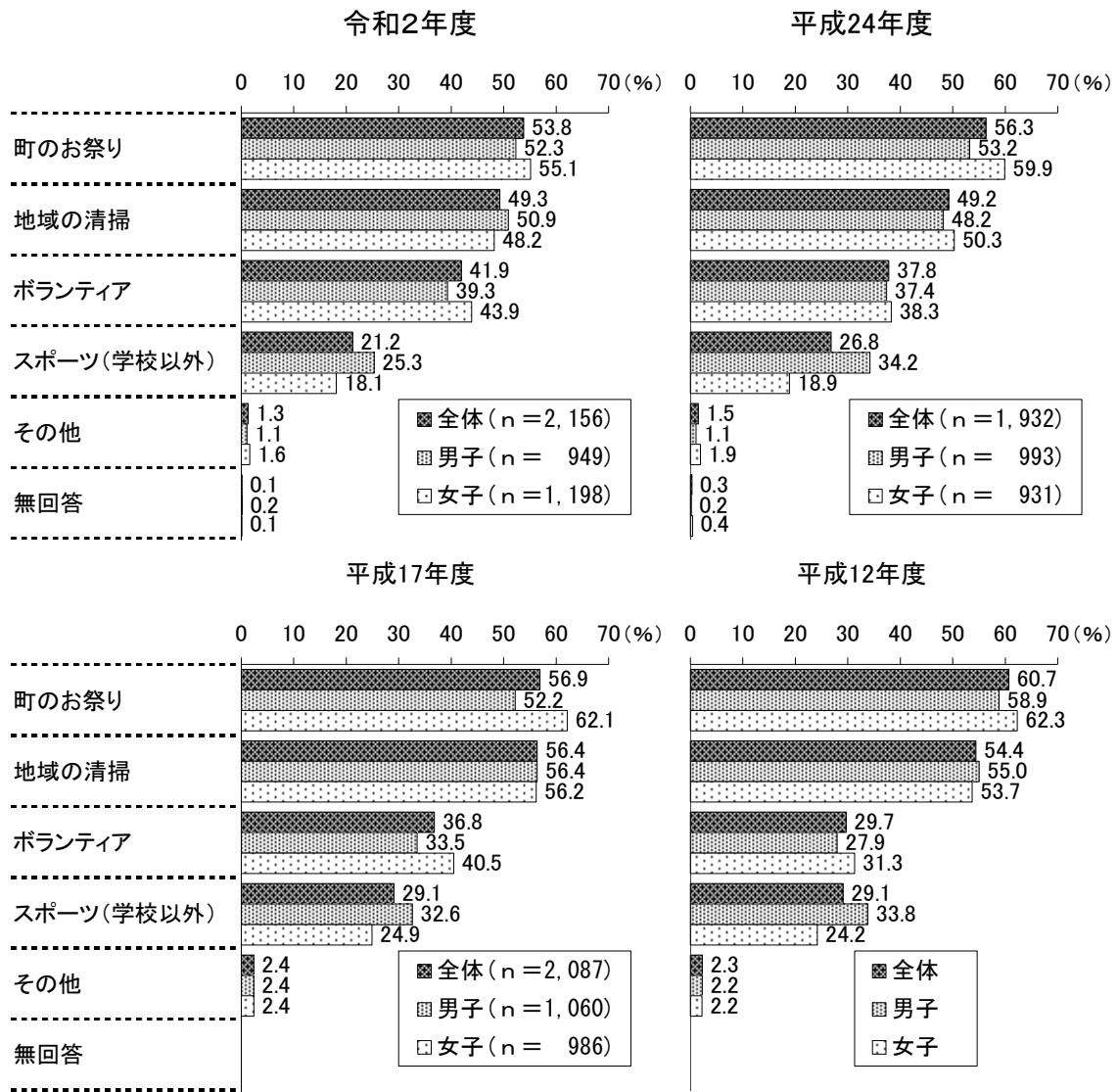
男女別では「ない」は平成24年度より男子で12.9ポイント、女子で7.5ポイント、それぞれ増加している。

(5) 地域活動の具体的活動内容

問41で「ある」と答えた方へ

問41-1 どのような地域活動ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表7-5-1 地域活動の具体的活動内容（経年比較）〔複数回答〕



地域活動の経験が「ある」と答えた人（2,156人）に、地域活動の具体的活動内容を聞いたところ、「町のお祭り」が53.8%で最も高く、次いで「地域の清掃」（49.3%）、「ボランティア」（41.9%）、「スポーツ（学校以外）」（21.2%）となっている。

男女別でみると、「スポーツ（学校以外）」は男子（25.3%）が女子（18.1%）より7.2ポイント高くなっている。一方、「ボランティア」は女子（43.9%）が男子（39.3%）より4.6ポイント高くなっている。

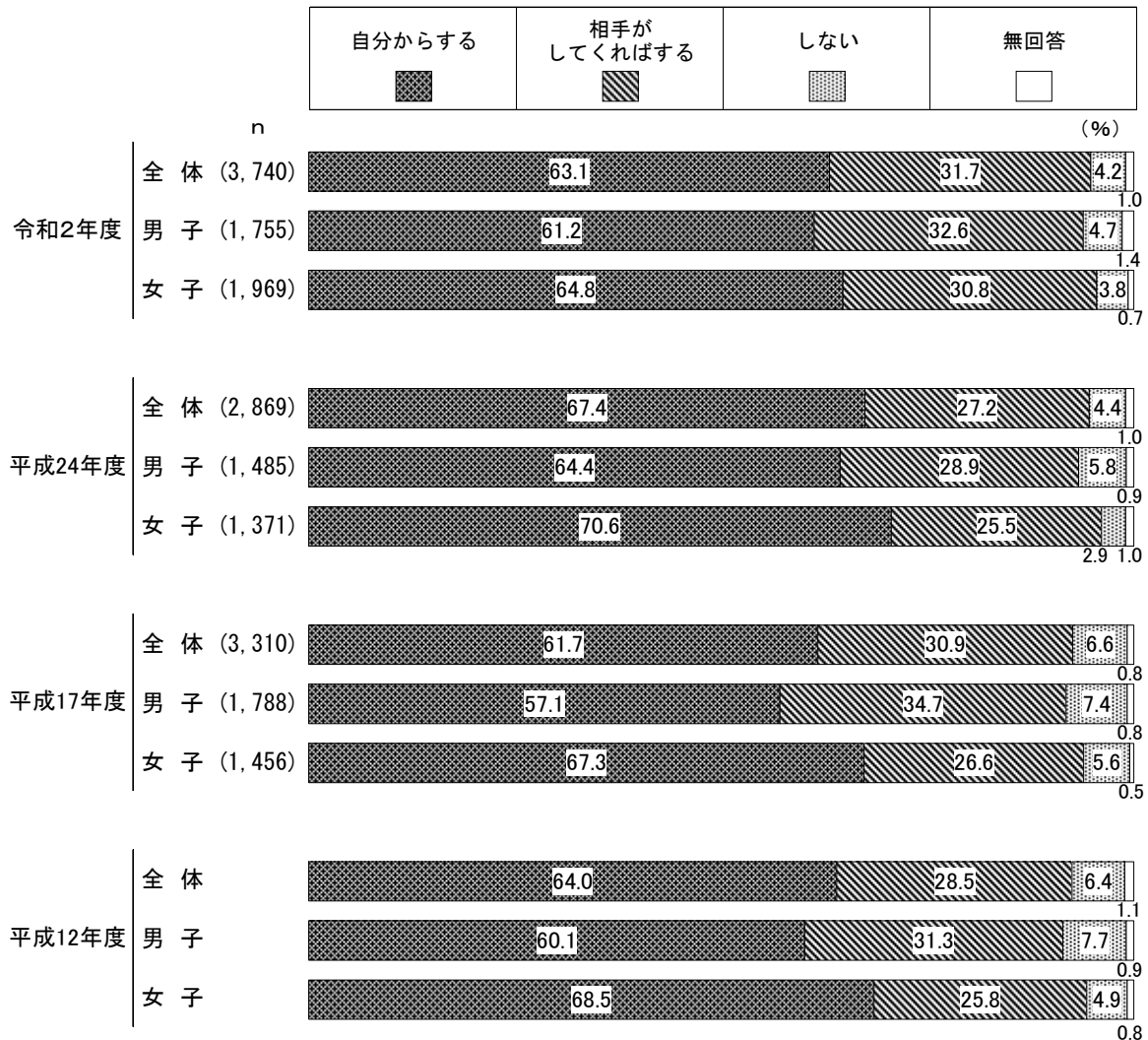
過去の調査と比較すると、全体では「ボランティア」は平成24年度より4.1ポイント増加している。一方、「スポーツ（学校以外）」は平成24年度より5.6ポイント減少している。

男女別では「ボランティア」は平成24年度より女子で5.6ポイント増加している。一方、「スポーツ（学校以外）」は平成24年度より男子で8.9ポイント、「町のお祭り」は平成24年度より女子で4.8ポイント、それぞれ減少している。

(6) 近所の人への挨拶

問42 近所の人と会った時、挨拶をしますか。

図表7-6-1 近所の人への挨拶（経年比較）



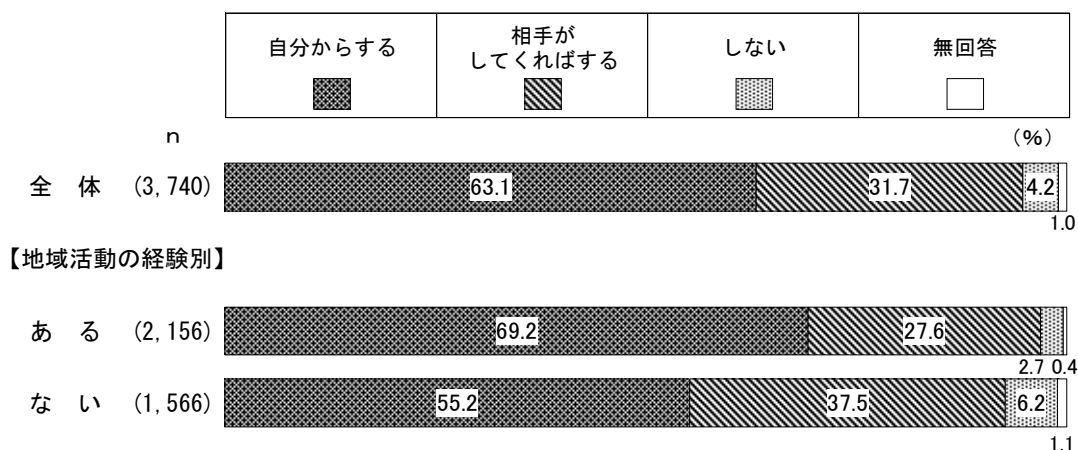
近所の人と会った時、挨拶をするか聞いたところ、「自分からする」が63.1%、「相手がしてくれればする」は31.7%となっている。一方、「しない」は4.2%となっている。

男女別でみると、「自分からする」は女子（64.8%）が男子（61.2%）より3.6ポイント高くなっている。

過去の調査と比較すると、全体では「相手がしてくれればする」は平成24年度より4.5ポイント増加している。一方、「自分からする」は平成24年度より4.3ポイント減少している。

男女別では「相手がしてくれればする」は平成24年度より男子で3.7ポイント、女子で5.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「自分からする」は平成24年度より男子で3.2ポイント、女子で5.8ポイント、それぞれ減少している。

図表 7-6-2 近所の人への挨拶（地域活動の経験別）



地域活動の経験別で見ると、「自分からする」は“地域活動の経験がある人”（69.2%）が“地域活動の経験がない人”（55.2%）より 14.0 ポイント高くなっている。一方、「相手がしてくれればする」は“地域活動の経験がない人”（37.5%）が“地域活動の経験がある人”（27.6%）より 9.9 ポイント高くなっている。



### Ⅲ まとめ

この調査は、令和2年9月～10月に県内の公立・私立高校（全日制）を地域の偏りがないように、保健所管轄地域16区から各1校ずつ無作為に抽出し、16校の2年生全員3,941人を対象に実施した。今回はその調査結果の分析をもとに、同様に実施した平成12年度、17年度、24年度の調査結果を比較し、分析を行った。

今回の調査で回答のあった生徒の男女比は、男子が46.9%、女子が52.6%となっている。家族構成は「核家族」が65.5%、「三世代家族」が19.5%、「母子家庭」「父子家庭」等を合わせて12.5%となっており、過去の調査に比すと「核家族」「母子家庭」が増加している。

日頃の生活では、朝食欠食者が男子に9.3%、女子に5.8%みられる。健やか親子21（第2次）では「朝食を欠食する子どもの割合」が評価指標となっており、朝食を食べない子どもの増加が課題となっているが、本調査では過去の調査と比べると「食べない」はあまり変化がなく、「毎日食べる」がやや増加傾向となっている。

起床時間は午前6時台が5%減少し、午前7時台が5%増加しており、そのほかの時間帯に変化はない。また、就寝時間は午前0時台が約40%、午前1時台が約20%と、約60%が午前0時以降に就寝している。夕食を家族と食べない理由を見ると、部活等で「帰宅が遅くなるから」が53.4%と過半数を超えており、就寝時間への影響が考えられる。

日頃の意識では「今の生活は充実感があり楽しい」等が増加するなど全体的に肯定的な傾向が見られるが、「なんとなくやる気がおきない」や「死んでしまいたいと思う」と否定的感情もやや増加している項目があり、留意が必要である。

社会対応力を問う項目では、「何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか」に「あてはまる」が40.9%、「ややあてはまる」が44.5%で合わせると8割台半ばを超えている。「まわりの人たちが自分とは違った考えをもっている、うまくやっていけますか」も75.5%、「他人を助けることを、上手にやれますか」は66.7%、「自分の感情や気持ちを素直に表現できますか」は56.1%、「初対面の人に自己紹介が上手にできますか」は51.0%といずれも半数以上を占め、コミュニケーション能力について肯定的な感情が見られる。

また「悩みを相談できる人はいる」が83.4%と過去の調査に比すと最も多くなっており、その相手は「学校の友人」が84.8%、次いで「母親」が56.6%となっている。

健やか親子21（第2次）では、十代のメンタルヘルスケアを課題に挙げており、自殺死亡率を評価指標としている。成人を含む全体の自殺死亡率は改善された一方で、子どもの自殺については深刻な状態にある。さらに現在は新型コロナウイルスによる自粛の影響も大きい。自殺は防ぐことができる死であり、子どものこころの問題への支援が重要となる。

喫煙習慣のある人は0.4%、今は非喫煙者だが経験のある人は1.6%と、過去の調査に比すとどちらも大きく減少している。しかし、喫煙する者、特に男子の喫煙本数は増加している。

喫煙習慣がある学生について、たばこを吸う家族の有無を見ると「父親が吸う」は53.3%となっている。喫煙の心身への影響についての認知や相談相手の有無は、喫煙習慣との関連が見られないので、家族からの影響が大きいことが伺える。

飲酒習慣のある人は3.3%、今は飲まないが経験がある人は11.3%となっている。喫煙に比べ、飲酒については本人の許容度が高く、悪影響があることについての認知度は高いものの、飲酒抑制には繋がっていない。また、飲酒のきっかけとして「親からすすめられた」が17.9%となっており、本人だけでなく、周囲の大人への啓発活動も必要である。

薬物についての認知状況は、「大麻」「コカイン」「危険ドラッグ」がいずれも9割を超えている。また、心身への悪影響についての認知度も高く、不正使用を断る自信がある者は約9割となっている。しかし、薬物乱用が増加している理由として「薬物が簡単に手に入る」が48.2%、また「ストレス解消になる」が60.9%となっており、たばこやアルコールのように「手軽に入手でき使用できるもの」と考えられている可能性がある。さらに、喫煙や飲酒の習慣がある者ほど薬物への関心が高い結果が見られるため、喫煙・飲酒と併せて更なる啓発活動が必要である。

性に関しては「成人になるまでセックスはするべきではない」と「結婚や愛などに関係なくセックスはしてもよい」がそれぞれ増加しており、過去の調査に比すると性に対する考え方の多様性が進んでいることが伺える。

避妊方法の知識については「コンドーム」が99.1%、「ピル」が91.3%となっており、「ピル」の認知度が上がっている。一方で「膣外射精」が避妊方法とした者が41.3%いる。性感染症の認知度は「エイズ」が93.5%と最も高く、過去の調査より認知度が高いのは「クラミジア」「性器ヘルペス」「梅毒」「淋病」だった。

また、性に関して相談相手がいる者は33.1%となっており、6割以上は「相談の必要もない」と回答している。保健所で性感染症の検査を実施していることを「知っている」は64.7%となっており、昨年度開設したにんしんSOSちばを「知っている」は42.7%だった。

現代は性に関して様々な情報があふれており、正しい知識がなければ正しい選択ができない。このため、十代の子ども達に性に関する正しい知識をしっかりと伝えることが重要である。